

## **成熟した大人として**

エペソ人への手紙 4章 7-12節

### **はじめに**

今日は、さがみのキリスト教会の創立 31 周年記念礼拝です。最初に少し、この教会の 31 年の歴史を振り返ってみましょう。

この教会は、1992 年の 4 月に礼拝が始まりました。韓国人の任泰教（イム・テイギョ）宣教師の開拓伝道によるものです。教会の名称は、「相模キリスト教会」で、開拓当時は単立教会でした。小田急相模原駅南口のイトーヨーカドーの前にあるビルの一室を借りて礼拝が始められました。この時代を知っている方は、現在の教会員にはいません。それから半年後の 1992 年の 9 月には場所を移して、小田急相模原駅北口の駅から徒歩 1 分の線路沿いにあるマンション 1 階部分で礼拝が続けられました。この時代を知っている方は、池田清海執事、李美玉姉、田中賢兄、羽賀陽子姉、そして私です。場所を移して 1 年後の 1993 年の 9 月には、単立教会から日本長老教会に加入します。

その後、韓国文化を生かした伝道を続け、おもに韓国人が多く集うようになりました。大きな転機は、1999 年に現在の教会堂を購入したことです。開拓から 7 年目のことです。場所は駅から離れたが、名称も「さがみのキリスト教会」と改めて、新たな伝道がスタートしました。ちなみに私は、ちょうどこの時期に、1 年半の間、この教会の伝道師として奉仕していました。

新会堂を購入したこの教会は、伝道の情熱に燃えて、どんどん教勢を伸ばしていきます。一番多い時は、2004 年頃で、礼拝は約 80 名にも及びました。2 階の礼拝堂は満員で、1 階部分に鉄骨を入れて補強しなければ、危険なほどでした。しかし礼拝に集うほとんどの人は韓国人で、日本人は僅かしかいませんでした。

2005 年頃には、教会も大きな痛みを経験します。当時約 20 人いた執事のうち、半数の執事が事情により教会を離れてしまうのです。その頃、長老は一人もいなかったため、実質的に教会を支えていたのは執事たちでした。そのため、教会にとっては大きな試練の時となりました。

その頃から教会は、日本語部と韓国部に分かれて礼拝を行い、後々にはそれぞれ独立する計画を持つようになりました。しかし、2008 年頃に起きたリーマン・ショック（世界金融危機期）の影響で、この教会にいた韓国人の多くの信徒が韓国に帰国せざるを得なくなりました。任先生も、2009 年に韓国の教会からの招聘を受け、韓国に帰国されます。

そして 2010 年に、神学校を卒業したばかりの私がこの教会からの招聘を受け、牧師となります。その頃から再び、日本語部と韓国部が一つとなって礼拝を行っていくようになります。

ます。その後、2014 年には、寿夫牧師を協力牧師として招聘します。

私がこの教会の牧師となって、今年で 14 年目になります。この 14 年間、東日本大震災や新型コロナウイルスの大流行など、大きな時代の荒波に揉まれてきました。教会の中でも様々なことがありました。教会堂の修繕や様々な活動を試しながら行ってきました。そして、多くの人が教会に加わってくださり、また同時に多くの人が教会を去って行きました。喜びも痛みも経験してきました。しかし 31 年間、この教会は多くの試練を経験しながらも、決してなくなることなく存在し続け、礼拝が続けられてきたことを感謝します。

今日は、コロナが開けつつあるこれからの教会が、どのように歩めばよいのかを御言葉から学びたいと思います。

## 1. 牧師の役割

まず 11-12 節を見てみましょう。「こうして、キリストご自身が、ある人たちを使徒、ある人たちを預言者、ある人たちを伝道者、ある人たちを牧師また教師としてお立てになりました。それは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるためです」。

イエス様は、使徒や預言者、伝道者や牧師、教師を立てられました。これらの人々はどれも、聖書を語る人、福音を語る人です。つまり御言葉を語る人です。イエス様はなぜ牧師などの御言葉を語る人を立てたのでしょうか。それは、「キリストのからだ」を建て上げるためです。「キリストのからだ」とは、教会のことです（エペソ 1：23）。

では、牧師はどのようにキリストのからだである教会を建て上げていったらよいのでしょうか。それは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせることによってです。つまり信徒たちを御言葉によって整え、奉仕の働きへと導いていくことによってです。

キリストのからだである教会は、牧師が御言葉を語ることだけでは建て上げられません。信徒たちが整えられて奉仕の働きをすることによって建て上げられていくのです。教会の主役は、牧師ではなく信徒たちです。牧師はあくまでも、信徒たちが整えられて奉仕の働きをするために仕える者に過ぎません。教会は、信徒たちが生き生きと奉仕の働きをしてこそ、キリストのからだと言えるのです。教会がもし、御言葉を聞くだけのところであるとしたら、キリストのからだとは言えません。教会がただ御言葉を学び、慰められ、励まされるだけのところであるなら、キリストのからだは死んでいると言わざるを得ません。キリストのからだである教会は、御言葉を聞くだけでなく、信徒たちが生き生きと奉仕の働きをしているところなのです。そうでなければ、キリストのからだが生きているとは言えないのです。

牧師の役割は、信徒たちに生き生きとした奉仕の働きへと導き、キリストのからだを建て上げることです。そのためにこそ牧師は、御言葉を語るのです。牧師はあくまでも脇役です。信徒たちが奉仕の働きで活躍するのを、御言葉を通して支えるのです。

## 2. 信徒の役割

イエス様は、キリストのからだを建て上げるために、牧師には御言葉を与えられました。

ではイエス様は、キリストのからだを建て上げるために、信徒たちには何を与えられるのでしょうか。7節にはこうあります。「**しかし、私たちは一人ひとり、キリストの賜物の量りにしたがって恵みを与えられました**」。

イエス様は、私たち一人ひとりに賜物を与えてくださっています。その賜物を用いて奉仕の働きをして、キリストのからだを建て上げるためです。私たち一人ひとは、キリストのからだの一部です。必ず何かの賜物が与えられていて、キリストのからだを建て上げる役割が与えられているのです。私たちは皆、イエス様から与えられている自分の賜物は何かを考えるべきです。そしてキリストのからだを建て上げるために、自分には何ができるかを考えるべきです。私たち一人ひとは、イエス様を信じた時からキリストのからだの一部です。私たちは毎月、聖餐式のパンを食べるごとにキリストのからだの一部であることを覚えているのです。

しかし私たち一人ひとりに与えられているイエス様の賜物は、みな同じではありません。イエス様の「量り」に従って与えられています。ある人には多く、ある人には少なく、ある人には人前で目立つ賜物を、ある人には人前では隠れた賜物を与えられます。

しかしイエス様は誰か一人に、キリストのからだを建て上げるために必要なすべての賜物を与えることはなさいません。一人ひとりに少しずつ分け与えられるのです。一人では決してキリストのからだは建て上げられません。一人ひとりが自分に与えられた賜物を活かし、互いの足りない所、欠けている所を補い合わなければ、決してキリストのからだは建て上げられないのです。キリストのからだである教会は、何でもできる有能な人に奉仕を任せるところではありません。一人ひとりがイエス様から与えられた賜物を活かし、互いの欠けを補い合って建て上げるところです。私たちは、イエス様から与えられた賜物を土の中に埋めてはなりません。キリストのからだである教会は、一人ひとりがイエス様に与えられた賜物を活かして、少しずつ奉仕していく時に建て上げられていくのです。

ですから私たちの教会は、すべての人が何か一つでも奉仕をしてほしいと思います。どんな小さな奉仕でも構いません。教会学校や礼拝の奏楽はできないかもしれません。しかし掃除や受付、1階礼拝当番はできるかもしれません。また家で教会のために祈ること、献金を通して教会を支えることができるかもしれません。大きな声で賛美することで礼拝を豊かにすることもできるかもしれません。私たちは一人ひとりキリストのからだの一部です。イエス様から与えられた賜物を無駄にしてはなりません。皆さんのどんな小さな奉仕でも、キリストのからだを建て上げるために必要な奉仕なのです。

### 3. 「キリストのからだ」として成長する

教会は、キリストのからだです。人間の体は、子どもから大人になるまで成長していくように、キリストのからだである教会も、成長していくのです。13節にはこうあります。「**私たちはみな、神の御子に対する信仰と知識において一つとなり、一人の成熟した大人となって、キリストの満ち満ちた身丈にまで達するのです**」。キリストのからだである教会は、キリストに向か

って成長し、子どもから成熟した大人になっていかなければなりません。

では、子どもの教会とはどんな教会でしょうか。それは 14 節にあるように、「**人の悪巧みや人を欺く悪賢い策略から出た教えの風に、吹き回されたり、もてあそばれたり**」してしまう教会です。つまり世の中の価値観に惑わされたり、異端の教えに惑わされてしまう教会です。

では逆に、成熟した大人の教会とはどんな教会でしょうか。それは、「**神の御子に対する信仰と知識において一つとなっている**」教会であり、15 節にあるように「**愛をもって真理を語る**」教会であり、16 節にあるように「**愛のうちに建てられる**」教会です。

教会は、子どものままではいけません。成熟した大人の教会を目指していかなければなりません。それは必ずしも信徒の数が増えるということではありません。教会の成熟は、信仰と知識において一つとなっていることです。そのためには、イエス様によって立てられた牧師が語る説教に、皆で一緒に耳を傾けることが大切です。自分一人で聖書を読むだけでは、信仰と知識において一つとなることはできません。

また教会が成熟するためには、愛をもって真理を語らなければなりません。イエス様は恵みとまことに満ちておられました（ヨハネ 1：14）。そのからだである教会も、恵みとまことに満ちていなければなりません。恵みとまことは、福音のメッセージに満ちています。教会が成熟するためには、人々に福音を語る教会にならなければなりません。人々に伝道する教会にならなければなりません。この教会の地域、徒歩 20 分圏内の地域には、五万人が住んでいます。そのほとんどの人が、イエス様の福音を知らず、福音を一度も聞いたことがないでしょう。私たちの教会は、一人ひとりに与えられている賜物を活かして、それぞれが奉仕の働きをして、何とか五万人の人に福音を伝えなければなりません。

また教会が成熟するためには、愛において成熟しなければなりません。私たちはそれぞれイエス様から賜物を与えられています。しかしそれらの賜物は、皆の益となるために与えられているものです（I コリント 12：7）。また互いに仕え合うために与えられているものです（I ペテロ 4：10）。それぞれが与えられている賜物は、自分のためではなく、誰かのために用いる時に初めて活かされるのです。そして教会の中でその賜物を活かし、誰かを助けるため、誰かを支えるためにそれを用いる時、キリストのからだ<sup>①</sup>が建て上げられるのです。

## **おわりに**

私たちの教会は、今年で 31 周年を迎えます。人間の年齢で言えば、31 歳はもう大人です。イエス様は、約三十歳から公の働きを始められました。そしてガリラヤ地方を中心に人々に仕え、教えられました。その意味では、キリストのからだ<sup>①</sup>である私たちの教会も、これからと言えるかもしれません。私たちの教会は、もう子どもの年齢ではありません。大人の教会として、成熟していかなければなりません。そのために、①信仰と知識において一致していきましょう。②自分に与えられた賜物を生かして、誰かの益となるため、教会を建て上げるために用いて、たとえ小さな奉仕でも忠実に奉仕しましょう。③地域に住む五万人の人々に仕え、イエス様の福音を宣べ伝えていきましょう。

天におられる私たちの父なる神様。

この教会の31年の歩みを導いてくださり、心から感謝します。これまで時代の荒波に揉まれ、様々な試練と痛みを経験しながらも、教会堂を与え、礼拝が続けられてきたことを感謝します。神様がこの地に教会を建ててくださることを御心としてくださいました。

どうか私たちの教会が、成熟した大人の教会となっていくことができますように。信仰と知識において一つとなることができますように。信徒全員が賜物を生かして奉仕をし、キリストのからだを建て上げることができますように。どうか私たちが決して、頑固で頭の堅い大人の教会となり、時代から取り残されることがありませんように。しっかりと時代を見極め、人々の求めを見抜き、賢く福音を宣べ伝えていくことができますように。

この祈りを私たちの救い主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。